

第 22 回
日本教育カウンセリング学会
研究発表(早稲田大学)大会(2次案内)

大会テーマ

発達課題の達成を支える教育カウンセリング

－ 具体的な実践の工夫 －



会 会	期 場	2025(令和7)年11月8日(土)・9日(日)
		第1日目 早稲田大学 国際会議場
		第2日目 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館
主 後	催 援	日本教育カウンセリング学会
		文部科学省(申請予定)
		新宿区教育委員会(申請中)
		早稲田大学
		NPO 日本教育カウンセラー協会

発達課題の達成を支える教育カウンセリング ―具体的な実践の工夫―

日本教育カウンセリング学会 理事長

早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授

河村 茂雄

日本教育カウンセリング学会は、運営資金と運営人材の不足を補うため定期的に早稲田大学で大会を実施している。前回の 2019 年度大会は、2020 年から小学校を始めとして新学習指導要領が完全実施される直前、世界的なコロナ禍の自粛期間開始の直前であった。当時の学校現場は、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」と「資質・能力を育成するために主体的・対話的で深い学びとなる授業改善」という 2 つの大きな取り組みを統合して展開していくことが期待されていた。この取り組みは協働活動・学習を目指した「集団での学び」である。教室で一緒に展開されるのであり、そのハードルはとても高いものである。

あれから 6 年が経ち、コロナ禍で 3 年間続いた自粛生活が解除された 2023 年度の学校現場は、小・中学校の不登校児童生徒数が 11 年連続増加し、約 35 万人弱になってきた。まさに教育改革の取り組みは難航しているのである。児童生徒たちが不登校に至る要因はここ数年固定していて、その過半数が「無気力・不安」と文部科学省は指摘している。「無気力・不安」とは、実は不登校に至る背景に複合的な要因が絡み合っている。「具体的な原因を特定することは難しい」と分からないことが多く、現場の教師や支援者たちもその対応・支援に苦慮しているのである。

多様性と個性が尊重される時代に、子どもたちは個々の多様性ゆえに相互理解がなかなかできず、みんなで協働する目的を設定し、共に行動することができないでいる現状が考えられる。バラバラな拡散した状態のコミュニティの中で、不安で防衛的に行動しているのである。かかわりが希薄化し、孤立感が高まっているのである。自律性の育成を目指して取り組んできたはずなのに、子どもたちは孤立しているのではないだろうか？ 各段階の発達課題への取り組みが、十分にできずにいるのではないだろうか？

人間発達につながる大きな学びを有する協働活動・学習ができる場となる集団を、現在の子どもたちや社会環境の実態の中でどのように形成し、どのような教育活動を展開すればいいのだろうか？ 生涯に渡る発達の支援は、点での取り組みではダメであり、線となり、面とならなければ不十分である。教師や支援者個々の力は小さいかもしれないが、今こそ、同じ志を持った者同士がつながって、組織的に継続的に取り組むことで、少しでも現状を好転させていきたいものである。

本大会は、子どもたちの発達課題の達成を支える取り組みを、組織的に継続的に取り組んでいる具体的な実践に注目し、そこからみんなが次の取り組みにつながるヒントを得ることを目指している。今回の大会のスタッフも、早稲田大学河村研究室の博士課程と修士課程の院生たちと OB・OG を中心に運営される。院生たちの 3/4 は職業を持った社会人大学院生である。いろいろな人生行路を歩んで、今、協働学習ができる場を求めて早稲田に集っているメンバーである。このメンバーたちが、タイトなスケジュールと少ない予算の中で、工夫して大会の準備・運営をしてくれている。大会当日は、スタッフも含めて多様な参加者同士が、実践、研究、キャリアについても、気さくに声をかけあい、新たな気づきや学びが生まれることを期待している。

今年も、「リサーチが実践を支える」、それを実感できる大会になること、本学会の活動が現在の教育現場の様々な問題への対応に貢献できる一助になることを願っている。

大会日程・内容

第1日目：11月8日（土）

9：15 ～	受付（国際会議場 1 階）
10：00 ～ 12：00	・ 自主シンポジウム ・ 研究発表（オープン 25 分・移動 5 分×4） ・ 事例発表（クローズド 25 分・移動 5 分×4）
12：00 ～ 13：00	昼食休憩 12:30 ～ 12:50 日本教育カウンセリング学会総会 会員のみ（第三会議室） ※昼食持参
13：00 ～ 13：20	開会式・表彰式（井深大記念ホール）
13：30 ～ 14：50	大会記念講演（井深大記念ホール） 「教育実践を支える教育カウンセリング ―発達への支援と非認知能力の育成―」 講師 河村茂雄（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授）
15：05 ～ 17：05	・ 自主シンポジウム ・ 研究発表（オープン 25 分・移動 5 分×2） ・ 事例発表（クローズド 25 分・移動 5 分×3） ・ 学会研修会
18：00 ～ 20：30	情報交換会（場所：高田馬場「サルーテ」） ※名札持参

第2日目：11月9日（日）

8：30 ～	受付（早稲田キャンパス 3 号館 5 階）
9：00 ～ 10：30	・ ポスター発表（45 分×2） ・ 研究発表（オープン 25 分・移動 5 分×3）
10：40 ～ 12：40	【一般公開】 公開シンポジウム（実行委員会企画）（早稲田キャンパス 3 号館 501） テーマ「発達課題を支えるチーム支援の具体的な実践」 総括討論者：河村 茂雄（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授） コーディネーター：生貝 博子（早稲田大学客員教授・早稲田大会実行委員長） 話題提供者：堀井 ますみ（山梨県甲州市教育委員会・指導主事） 初鹿 香（千葉県松戸市立旭町中学校・教頭） 長 しのぶ（福岡県糟屋郡宇美町教育委員会・指導主事）
12：40 ～ 12：55	閉会式（早稲田キャンパス 3 号館 501）

<詳細日程>

■自主シンポジウム 11月8日(土) 午前の部 10:00 ～ 12:00, 午後の部 15:05 ～ 17:05

午前の部

第一会場 国際会議場 第一会議室

部活動の教育的意義について考える

ー自律を促す教育的視点に着目してー

企画者： 森 大 (早稲田大学大学院)
司会進行者： 森 大 (早稲田大学大学院)
話題提供者： 山本 卓也 (早稲田大学大学院)
児島 夕海 (早稲田大学大学院)
伊藤 康嗣 (立正大学非常勤講師)
森 大 (早稲田大学大学院)
指定討論者： 熊谷圭二郎 (日本大学)

第二会場 国際会議場 第二会議室

「チーム学校」を支える解決志向チーム会議のはじめ方

ーファシリテーターに挑戦すると決めた経験を通してー

企画者： 小川 千里 (会津大学)
司会進行者： 小川 千里 (会津大学)
話題提供者： 春日 智稀 (埼玉県公立小学校)
佐藤 好江 (新潟県小千谷市教育委員会)
神保しげみ (沖縄教育カウンセラー協会)
高橋 直子 (栃木県公立小学校)
指定討論者： 荻間澤勇人 (会津大学)
内野 博之 (栃木県公立小学校)
事例実施者・ファシリテーター：
仲里 直美 (沖縄県公立中学校)
事例提供者： 谷利 恵子 (栃木県公立小学校)
藤川 優子 (栃木県公立小学校)
小川 千里 (会津大学)

第三会場 国際会議場 第三会議室

小学校における教師間のピアフィードバックの促進による教育実践の充実

企画者： 森永 秀典 (金沢星稜大学)
司会進行者： 森永 秀典 (金沢星稜大学)
話題提供者： 森 俊博 (山口学芸大学)
森永 秀典 (金沢星稜大学)
高島英公子 (早稲田大学大学院)
飯沼 俊雄 (早稲田大学大学院)
指定討論者： 深沢 和彦 (神奈川県立保健福祉大学)

午後の部

全体会場 国際会議場 井深大記念ホール

GIGAスクール時代の発達課題支援

ー教室を越えるICTと対話的アプローチの可能性ー

企画者： 河村 昭博 (会津大学)
司会進行者： 井口 武俊 (共立女子大学)
話題提供者： 齊藤 勝 (帝京平成大学)
稲田 達也 (早稲田大学大学院)
井口 武俊 (共立女子大学)
河村 昭博 (会津大学)
指定討論者： 荻間澤勇人 (会津大学)

第一会場 国際会議場 第一会議室

エンカウンターと対話のある授業で非認知能力を育てる

ー非認知能力検査を活用した育成プログラムの可能性を探るー

企画者： 水上 和夫 (対話のある授業みらい研究所)
司会進行者： 三田 祐輔 (対話のある授業みらい研究所)
話題提供者： 東 則孝 (NPO日本教育カウンセラー協会)
佐藤 寛子 (富山市立菰浦小学校)
島田 昌美 (公立学校スクールカウンセラー)
水上 和夫 (対話のある授業みらい研究所)
指定討論者： 大友 秀人 (NPO日本教育カウンセラー協会)
吉澤 克彦 (新潟県立大学)

第二会場 国際会議場 第二会議室

子育て支援教育カウンセラーの可能性

ー地域を基盤にした子育て支援ー

企画者： 吉田ゆかり (札幌保健医療大学)
司会進行者： 穴水ゆかり (拓殖大学北海道短期大学)
話題提供者： 橘 和代 (前山村学園短期大学 子ども学科)
吉村 明美 (浦河子育て応援を考える会・浦河ひがし町診療所)
横地 康恵 (北海道教育庁釧路教育局教育支援課学校教育指導班)
指定討論者： 富田 久枝 (千葉大学)

■口頭研究発表

第1日目 11月8日(土) 午前の部 10:00 ～ 11:55, 午後の部 15:05 ～ 16:30

第2日目 11月9日(日) 9:00 ～ 10:25

発表時間	1日目	A 10:00～10:25	B 10:30～10:55	C 11:00～11:25	D 11:30～11:55
		E 15:05～15:30	F 15:35～16:00	G 16:05～16:30	
	2日目	A 9:00～9:25	B 9:30～9:55	C 10:00～10:25	

※事例発表は、クローズドで行われます。参加される方は、発表の途中では退室できません。
発表資料は、分科会 会場受付簿に氏名・所属を記載された参加者のみに限定配付され、発表後、すべて回収します。
※各発表の開始時間について、多少前後する場合がございます。あらかじめご了承ください。

第1日目

第四会場	【事例発表】		国際会議場 共同研究室⑥
	A	山 脇 真 弓	「死」を願うことで「生」を模索する
	B	丹 藤 美津子	保護者支援で心理的安定を図ったケース
	C	三 田 朗 子	別室登校のA子に対する自立に向けた支援
	D	西 村 健	グループ活動(人間関係トレーニング)で積極的にできなかった学生について
	E	藤 田 道 子	友人に乱暴な行動を示す小2男児への対応
	F	三 輪 教 子	通級指導教室におけるSSTの取り組み ーよりよい人間関係づくりのできる児童の育成ー
	G	井 桁 明 美	被虐待経験者の母が虐待の連鎖を断ち切るまでの立ち直り 支援の事例
第五会場	【研究発表】		国際会議場 共同研究室⑦
	A	高 橋 昌 子	中学校情緒固定級での英語授業実践 ー個別の発達課題を踏まえた授業デザインー
	B	江 藤 和 彦	A児が友達と共に生き生きとした姿になるための援助 ーその2 交流学級における学びの工夫ー
	C	平 宮 正 志	大学での読書感想文を課題とした実践 その3 ー読書カウンセリング、スタディスキルス、課題未然防止教育の視点をふまえてー
	D	谷 戸 玲 子	校内研修に構成的グループエンカウンターを導入する意義
	E	足 立 智 子	大学1年前期の線形代数演習におけるSGE
	F	吉 田 武 史	解決構築とレジリエンスが小学生の不登校傾向に与える影響

第2日目

第一会場	【研究発表】		早稲田キャンパス3号館 404
	A	生 貝 博 子	公立小中学校教員のワーク・エンゲイジメントとメンタルヘルスの関連の検討 ー60代のメンタルヘルスに注目してー
	B	柳 瀬 啓 史	学校OJTに活かす教育カウンセリングの理論と手法Ⅲ ー若年教員の自律的成長と協働システムー
	C	山 崎 夏 代	チーム学校化する取り組みのインタビューによる裏付け
第二会場	【研究発表】		早稲田キャンパス3号館 405
	A	名 和 勇 雄	ショートエクササイズを利用した「アイ愛タイム」の実践
	B	酒 井 豊 志	職員の「協働」で生徒に安心感が芽生える可能性
	C	木 嶋 葉 子	構成的グループエンカウンター体験から見えた養護教諭の意識 ーエクササイズ「10年後の私」からー
第三会場	【研究発表】		早稲田キャンパス3号館 406
	A	渡 部 昌 平	学生は教職科目「教育相談」から何を学ぶのか
	B	石 丸 裕 士	高専でのQ-Uを用いた全校的学学生支援とコロナ禍影響調査
	C	竹 吉 也寿子	効果的な面談や支援会議の仕組みづくりにむけて ー俯瞰シートを活用した実践の試みー
第四会場	【研究発表】		早稲田キャンパス3号館 605
	A	松 下 眞 治	教育支援員がみたA中学校について ー授業見学等から分かったことー
	B	松 浦 賢 一	協同の原理を活かした中高生のリーダー養成プログラムの開発 ー非認知能力を高める地域の課題解決学習の実践からー
	C	真 鍋 孝 徳	社員教育と教育カウンセリング
第五会場	【研究発表】		早稲田キャンパス3号館 606
	A	米 原 拓 哉	「日本版 解決志向のクラスづくり完全マニュアル」に基づく小学校担任による実践 (2) ー米原ら(2024)の改良を踏まえた再実践の検討ー
	B	浦 上 沙 織	「書くこと」に困難を抱える児童への算数指導の工夫 ー書き込み式ワークシートを活用した実践を通してー
	C	和 泉 光 則	交流分析実践における「こんな私はOKでない」の落とし穴とその対策 ー相談活動・教材開発等へ有効に活かすためにー
第六会場	【研究発表】		早稲田キャンパス3号館 601
	A	伊 藤 友 彦	生成AIと教育カウンセリングの親和性の検討
	B	霜 野 美 江	カラーワークを取り入れたタブレットSGEの実践 ー感情の視覚化ー
	C	神 崎 秀 嗣	教育カウンセリングを導入したさまざまなインストラクションデザインの試み

■ポスター発表 2日目 11月9日(日) 9:00 ～ 10:30

【前半】演題奇数番号在籍時間 9:00 ～ 9:45

【後半】演題偶数番号在籍時間 9:45 ～ 10:30

早稲田キャンパス3号館 4階廊下		
①	高 橋 幾	不登校傾向のある中学校生徒の学級適応感に関する縦断的な検討
②	牧 野 紘 子	青年期のアスリートにおける競技不安と心理的支援の在り方 ー国内文献レビューによる特徴と支援ニーズの検討ー
③	児 島 夕 海	侵害行為認知群に位置する児童の継続的な観察を通した変容に関する一事例 ーソーシャルスキルの学習機会の先延ばしに注目してー
④	森 永 秀 典	小学校の学年教師間のピアフィードバックを促進する取り組みの効果 ーB学年の児童の学級適応感と教師の意識の変容に着目してー
⑤	春 日 智 稀	教育データ活用×プロアクティブな生徒指導・教育相談 ー「心の健康観察」の実践を通してー
⑥	米 川 純 子	セルフ・コンパッションがスチューデント・アパシーに与える影響
⑦	神 崎 秀 嗣	VR空間とAIを用いた教育カウンセリングの可能性と倫理的配慮について
⑧	富 永 香 羊 子	総合的な学習の時間の現状に関する一考察 ー児童の学習動機に着目してー
⑨	伊 賀 美 夕 季	不登校生徒の教室復帰後における学級の適応に関する考察 ー相談室から学級へ復帰した生徒の事例からー
⑩	田 上 幸 雅	小・中学校教師のワーク・エンゲイジメントとストレスに対する心理・社会的要因の影響 ー 教師効力感, 同僚・協働性, ソーシャルサポートに着目してー
⑪	吉 田 ゆかり	ハイフレックス&タブレットを活用したスペシフィックSGEアドバイザー養成研修の実際 ーPart2ー
⑫	稲 田 達 也	通信制高校における生徒の非認知能力に関する研究の動向
⑬	江 藤 和 彦	特別支援学級におけるSGEの学習について ー視覚的教材を利用することでー
⑭	山 本 彩 未	大学生の心理的適応を高める要因の検討 ー愛着スタイルと非認知能力に着目してー
⑮	五十嵐 弥 生	児童期における非認知能力の発達と幸福感の形成に関する展望的検討 ー誠実性の役割に着目してー
⑯	森 大	高校野球部における部活動満足度の要因についての検討 ー学年による影響に着目してー
⑰	山 本 卓 也	通常学級に在籍する生徒で行動が気になる生徒についての考察 ー学級担任へのアンケート結果からー
⑱	深 沢 和 彦	学級満足度4群別の異質拒否傾向の比較
⑲	松 村 悠 生	運動部活動経験者における, 認知的方略と困難に対する信念および達成困難な目標への対処方略の関連の検討
⑳	高 島 英 公 子	小学校教育実習校における実習経験が, 教育実習生の教師効力感に及ぼす影響
㉑	仲 里 直 美	中学生のソーシャルスキルのアンバランスさとグループ状態認知, 友人関係形成欲求との関連
㉒	谷 戸 玲 子	教師の自律的動機に注目した構造的アプローチの一考察 ー主体性を育む思考トレーニングの実践を通してー
㉓	飯 沼 俊 雄	教員の異動後の不適応に関する研究の動向と展望
㉔	丹 羽 友 佳	大学授業でのSSTとSGEを活用した短時間グループアプローチの実践Ⅱ ー多様な価値観を認め合えるグループワークを目指してー
㉕	水 野 邦 夫	1日研修方式SGE体験の特徴について ー感情変化・心理的成長感を中心にー
㉖	南 雅 則	高校生の構成的グループ・エンカウンター体験評価と学校適応感・被援助に対する肯定的態度との関連
㉗	熊 谷 圭 二 郎	日本の学校における学年団の機能と学年主任の役割 ー現状と課題の整理ー
㉘	森 田 健 宏	教育相談場面におけるマスク着用・非着用生徒の感情理解のあり方についての検討 ー生徒の表情への注視ポイントを手掛かりにー
㉙	吉 岡 典 彦	中学校における継続的な4人組での語り合い活動の実践とその効果
㉚	森 俊 博	児童のソーシャルスキル発揮を阻害する経験的要因の検討
㉛	河 村 昭 博	大学生の“語り”に見る学びの芽生えとつまずき ー感想フォームに基づく発達支援的なまなざしの試みー
㉜	笠 さ わ 子	特別支援学級での心理教育プログラムの実践 ー自閉症・情緒学級の自立活動での取り組みー
㉝	茂 呂 輝 夫	「教育相談の理論と方法」における実践的指導力の育成の検討Ⅱ ー自己組織化マップ分析・対応分析・多次元尺度法分析による検証を通してー
㉞	瀧 光 彦	「教育相談の理論と方法」における実践的指導力の育成の検討Ⅰ ー共起ネットワーク分析とクラスター分析による検証を通してー
㉟	山 脇 眞 弓	教員自身が孤立せずに希望をもって教育にかかわるための教員組織づくり
㊱	遠 藤 勇 汰	小学校保健の学習における認知的心理予防教育の実践 ー学校現場における認知的心理予防教育の普及を目指してー

2 大会参加申込

(1) 参加費

項 目		事前申込	当日申込	備 考
大会参加費 (論文集1冊を含む)	学会員	6,000 円	7,000 円	
	非学会員	8,000 円		
	学生・院生	3,000 円		
記念講演・公開シンポジウム のみの参加費	非学会員	2,000 円	3,000 円	論文集は含みません (論文集：価格未定)
情報交換会	申込者	7,000 円		当日は残席が ある場合のみ

(2) 参加申込方法

	方法	払 込 先	締 切
大会参加 申込	次に示すQRコードより、研究発表 大会の「参加申し込みフォーム」 からお申し込みください。  https://forms.gle/b6MF3V6u3qcpuvNQ6	振込先：ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ）店	参加申し込み締め切り 2025 年 9 月 15 日 (月)
情報交換会 申込		振込口座：0267425 名義：日本教育カウンセリング学会	入金期限 2025 年 9 月 15 日 (月)

※締切日までに入金が確認できない場合、申込みはキャンセルされたものとみなします。

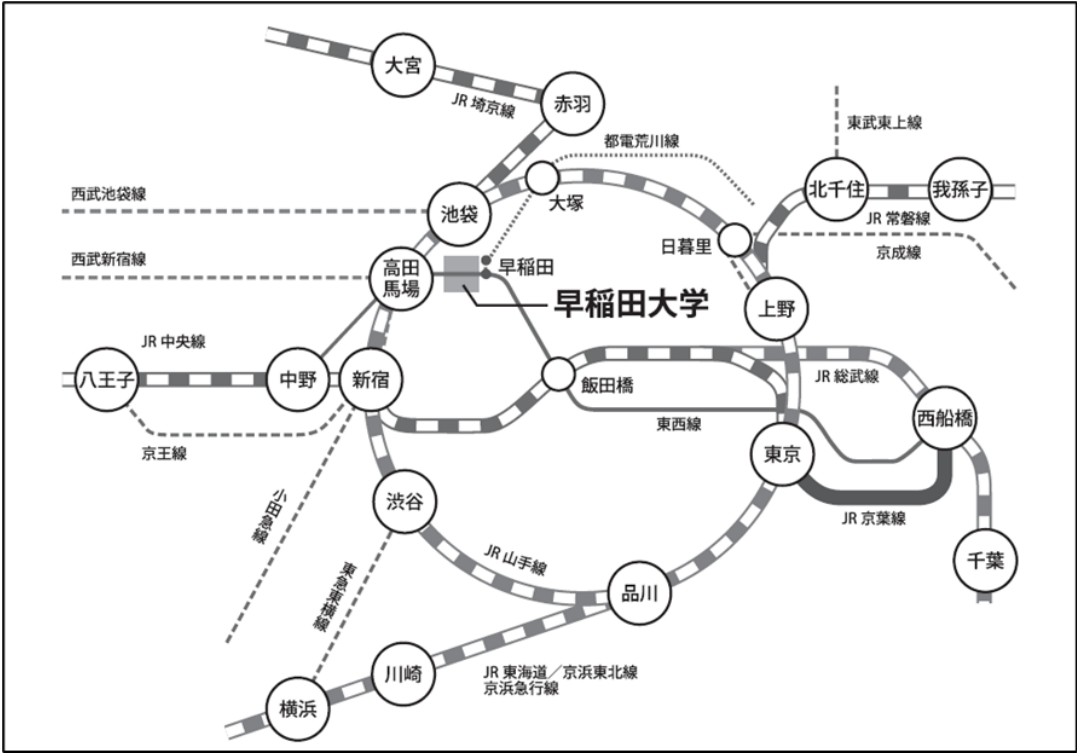
※参加申込は、Google フォームのみで受け付けます。

実行委員会や学会事務局に E-mail で送付されても受付できませんので、ご注意ください。

※情報交換会に参加希望の方は、大会参加費と合わせて情報交換会参加費もお振込ください。

※9 月 15 日 (月)以降にお申込みの方は、参加費を当日受付にてお支払いください。

■会場へのご案内



■空路ご利用の場合

羽田空港第1・第2ターミナル駅—（京急空港線）— 品川駅 — （JR 山手線） — 高田馬場駅	（約 55 分）
羽田空港第1・第2ターミナル駅—（京急空港線）— 日本橋駅—（東京メトロ東西線）— 早稲田駅	（約 1 時間）
羽田空港第1・第2ターミナル駅—（東京モノレール）— 浜松町駅—（JR 山手線）— 高田馬場駅	（約 1 時間）

■新幹線をご利用の場合

上野駅（21 分）	} ——— （JR 山手線） — 高田馬場駅
品川駅（24 分）	
東京駅（29 分）	

※早稲田大学周辺のパーキング料金相場は1時間当たり1,400円～2,500円です。

公共交通機関をご利用いただくことをおすすめします。

■最寄り駅から会場への案内

11月8日 早稲田キャンパス 国際会議場

11月9日 早稲田キャンパス 3号館

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

※早稲田大学キャンパスマップを一部加工して使用

至高田馬場駅・西早稲田駅



国際会議場へのアクセス

- ①高田馬場駅から都営バス「西早稲田」バス停で下車 徒歩 3 分
- ②高田馬場駅から都営バス「早大正門」バス停で下車 徒歩 7 分
※正門を進み、大隈銅像で右に曲がって直進
- ③東西線早稲田駅から 徒歩 10 分
※南門を進み、大隈銅像を通過して直進
- ④高田馬場駅から 徒歩 20 分
- ⑤東京さくらトラム（都電荒川線）早稲田駅から徒歩 5 分

3号館へのアクセス

- ①高田馬場駅から都営バス「早大正門」バス停で下車 徒歩 3 分 ※正門に入って右手側
- ②東西線早稲田駅から 徒歩 5 分
※南門に入って正面右手側
- ③高田馬場駅から 徒歩 25 分
- ④東京さくらトラム（都電荒川線）早稲田駅から 徒歩 10 分